

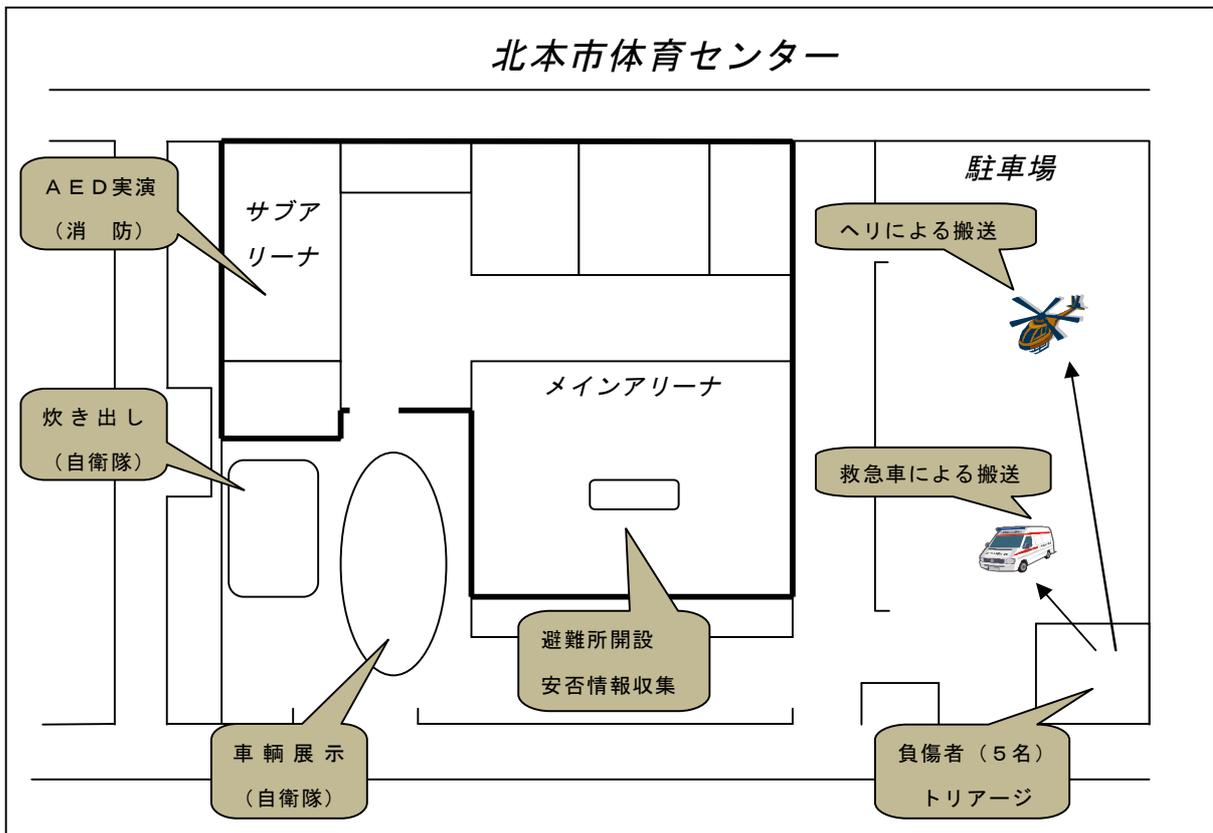
平成22年度国民保護実動訓練の実施結果について

1 目的

緊急対処事態（大規模テロ等）に備え、住民の避難誘導や救援活動が迅速かつ円滑に行えるよう、県、市及び関係機関相互の連携や対処能力の向上を図るための実動訓練を実施しました。

2 概要

- (1) 実施日時 平成22年11月27日（土） 9：15～13：00
- (2) 実施場所 鴻巣市役所→（徒歩・バスによる避難）→北本市体育センター
- (3) 参加機関 県、鴻巣市・北本市（共催）、両市市民、埼玉県央広域消防本部、鴻巣市消防団、鴻巣警察署、陸上自衛隊、医療機関（北里大学北里研究所メディカルセンター病院）
- (4) 参加者数 約250人
- (5) 訓練想定 鴻巣市内において新幹線車両爆破事件が発生し、テログループが駅前商業施設に立て籠った場合を想定。
- (6) 訓練内容
 - ① 住民の避難誘導訓練（鴻巣市役所から北本市体育センターまで徒歩・バスで避難）
 - ② 避難所開設、炊き出しによる食事の提供、安否情報の収集、負傷者の救護・搬送
 - ③ 避難誘導や救援に係る関係機関との調整



3 今回の訓練の特徴

- (1) 県として、初めて市域を越える(鴻巣市・北本市)避難訓練を実施しました。
- (2) 住民の避難誘導及び救援の実施について、市、消防、警察、自衛隊、医療機関等相互の連携を確認しました。
- (3) 住民への避難周知から避難、避難所の開設、及び発災現場における医師によるトリアージ、搬送(ヘリ搬送を含む)まで行うなど、実践的な内容で実施しました。

4 訓練の状況



平成22年11月27日(土)午前6時30分頃、鴻巣市内において、新幹線の車両爆破事件が発生し、犯人グループが鴻巣駅前の商業施設に立てこもった場合を想定し、周辺住民が鴻巣市役所から避難先の北本市体育センターまで徒歩により、避難を行いました。



要援護者の方については、避難先の北本市体育センターまでバスにより、避難を行いました。



北本市体育センターに到着した避難住民の方々は、市の職員から安否情報システム(注)についての説明を受けました。

(注) 避難所等において、負傷者等の安否に関する情報を収集し、家族や知人からの照会に対応するシステムを言います。



北本市体育センターメインアリーナにおいて、避難所の開設を行いました。

避難住民の方々は、避難生活において、個人のプライバシーを守り避難生活を支援するための簡易組み立て式生活スペースの説明を受けました。



北本市体育センターサブアリーナにおいて、避難住民の方々は、埼玉県中央広域消防本部によるAEDの実演の説明を受けました。



埼玉県中央広域消防本部の消防隊員が、負傷者を「トリアージ実施場所」まで担架で搬送しました。



担架で搬送された負傷者は、医師によるトリアージを受けます。トリアージとは、大規模な事故や災害時の医療現場で行われる「負傷者選別行為」を指します。同時に多数の負傷者が発生すると、治療スタッフや器具などが圧倒的に不足します。そこで負傷者を重傷度別に分け、適切な処置や病院への搬送などを行うことで、より多くの負傷者の治療を可能にします。



医師によるトリアージを受けた重症患者が県防災ヘリコプターに運ばれていきました。

患者は医療機関に搬送され、本格的な治療を受けることとなります。



医師によるトリアージを受けた中・軽症患者が埼玉県央広域消防本部及び陸上自衛隊の救急車に運ばれていきました。

患者は医療機関に搬送され、本格的な治療を受けることとなります。



閉会式終了後、避難住民のための炊き出し訓練を実施しました。

北本市の市民が用意した食材を使って自衛隊がカレーライスを作り、避難住民に振る舞われました。



当日は、自衛隊の特殊車輛の展示も行われました。

国民保護活動で実際に活躍することが考えられる指揮通信車、軽装甲機動車、高機動車の3台が陸上自衛隊により展示され、避難住民に説明されました。